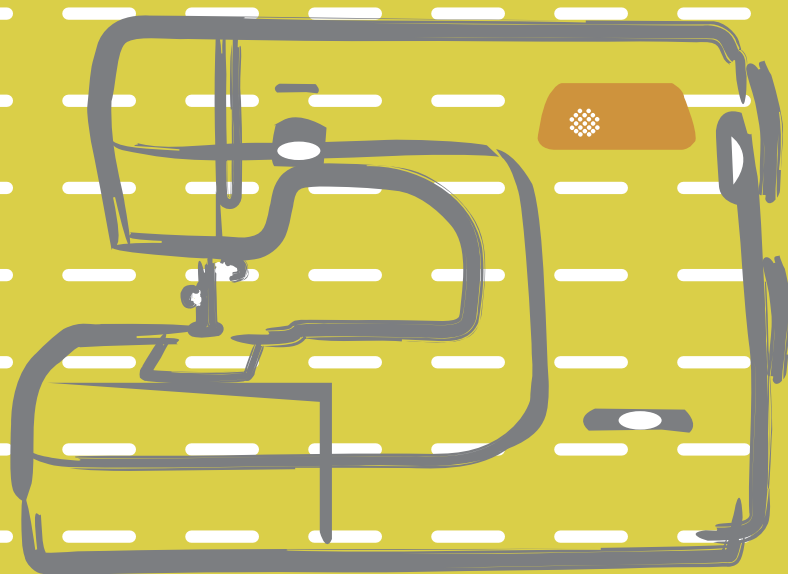


取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
----------------	---	---

本文中の図記号の意味		△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 警告	感電・火災の原因になります。
	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は5℃～35℃です。
	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
	電源コードやフットコントローラーのコードを傷つけたり、加工したり、はさみ込んだり、たばねたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、重い物をのせたり、高温部に近づけたりしないでください。 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
	必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
	必ず実行 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	必ず電源プラグを抜く 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

 注意	感電・火災・けがの原因になります。
	ミシンの通風口はふさがないようにください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
	注意 お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
	必ず実行 ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。
	必ず実行 プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
	必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
	必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	必ず実行 以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
	必ず電源プラグを抜く 以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
	必ず電源プラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

 注意	感電・火災・けがの原因になります。
	分解禁止 お客様自身での分解はしないでください。
	接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はすみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	禁止 ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
	禁止 曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。

目 次

おとり扱いについてのお願い	2
●各部の名まえ	3
●補助テーブル	4
★小物の収納	4
★補助テーブルのはずし方	4
★フリーアームの使い方	4
●標準付属品	4

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方	5
★スタート・ストップボタンを使用する場合	5
★フットコントローラー（モデルにより別売り） を使用する場合	5
●スタート・ストップボタン	6
●上下停止ボタン	6
●返しぬいレバー	6
●速さの調節	7
★フットコントローラー（モデルにより別売り） を使用する場合	7
●押さえ上げ	8
●ドロップつまみ（送り歯のあげ方、さげ方）	8
●押さえ圧の調節	8
●押さえのとりかえ方	9
●押さえホルダーのはずし方、つけ方	9
●糸調子の合わせ方	10
★自動糸調子	10
★マニュアル糸調子	10
●模様選択ダイヤル	11
●ぬい目のあらせ調節ダイヤル	11
●各模様と押さえの関係	11
●下糸の準備をしましょう	12 ~ 14
★ボビンをとり出します	12
★糸こまのセット	12
★ボビンに糸を巻きます	13
★ボビンを内がまにセットします	14
●上糸の準備をしましょう	15
★上糸をかけます	15
●糸通しの使い方	16
●下糸を引きあげるには	17
●針のはずし方、つけ方	18
●布に適した糸や針を選ぶ目安	18

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい	19 ~ 20
★ぬいはじめ	19
★厚手の布端のぬいはじめ	19
★ぬいおわりと糸の切り方	19
★針板ガイドラインの利用	20
●ジグザグぬいとかがりぬい	21
●トリコットぬい裁ち目かがり	21
●かがりぬいステッチ	21
●まつりぬい	22
●三重ぬい	23
●伸縮ぬい	23
●ボタンホール	24 ~ 25
★ぬい目のあらせ調節	25
●芯入りボタンホール	26
●ボタンつけ	27
●ファスナーつけ	28 ~ 29

応用ぬいいろいろ

●キルティング	30
●ピンタック	30
●アップリケ	30
●ファゴティング	31
●パッチワーク	31
●シェルタック	31
●スカラップ	32
●飾りぬい	32
●ししゅう	32
●スモッキング	33
●スーパー模様の形の整え方	33

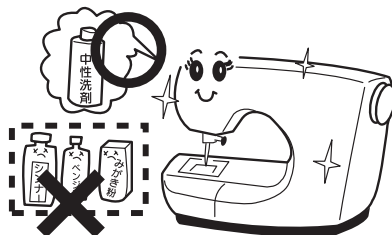
ミシンのお手入れと調整

●ミシンのお手入れ	34
★かまの掃除	34
★かまの分解	34
★かまと送り歯の掃除	34
★かまの組立て	34
●ミシンの調子が悪いときの直し方	35 ~ 36
別売品のご紹介	37 ~ 38

おとり扱いについてのお願い

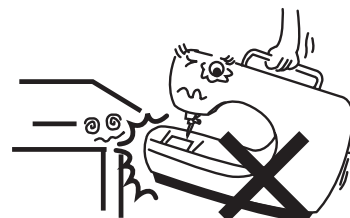
◇ご使用の前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇いつまでもご愛用いただくために

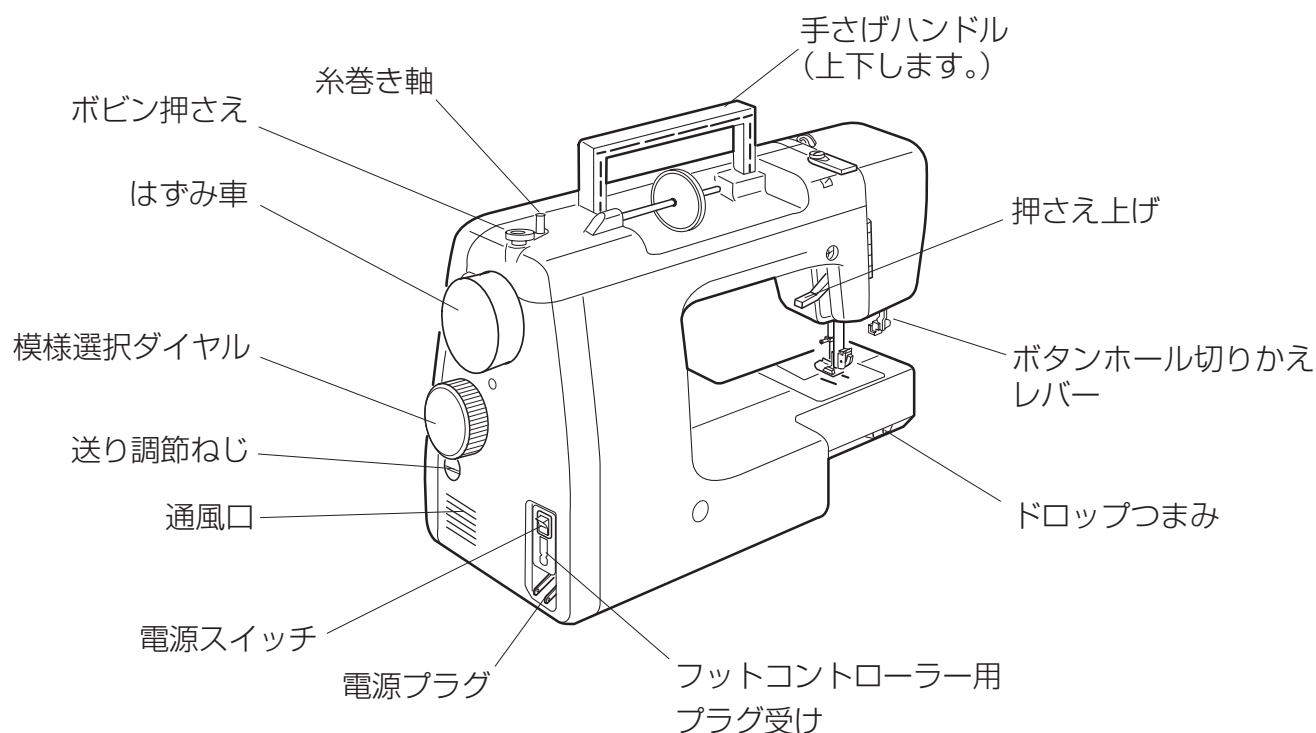
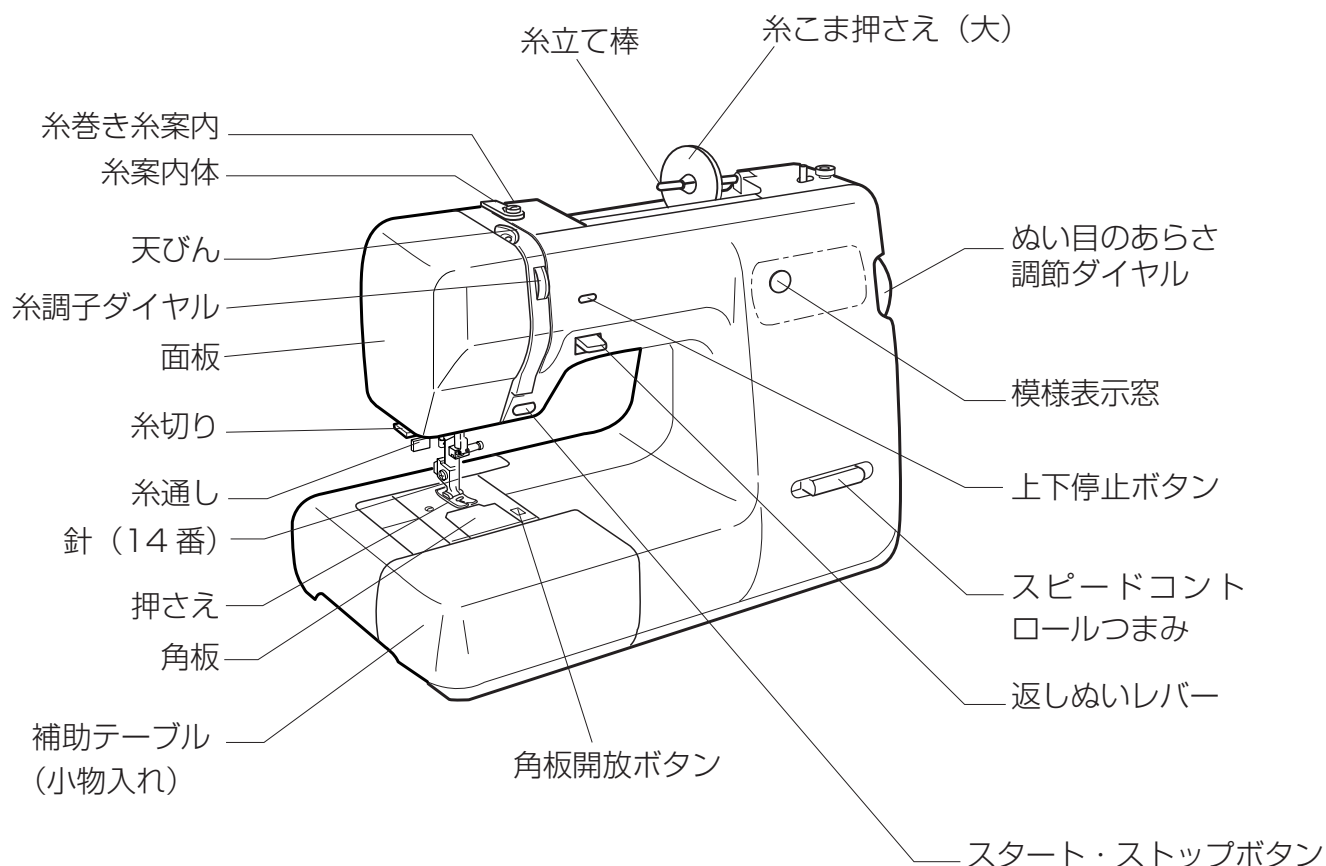
- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。



◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(35～36 ページ) により点検・調整を行ってください。

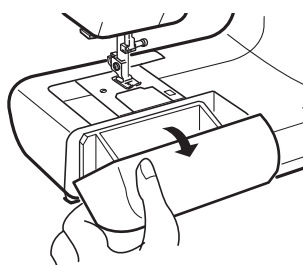
●各部の名まえ



※製品改良等のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

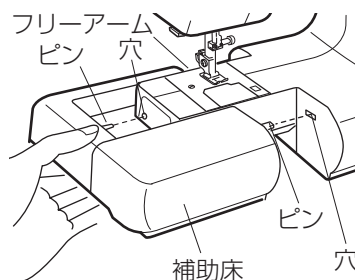
●補助テーブル

★小物の収納



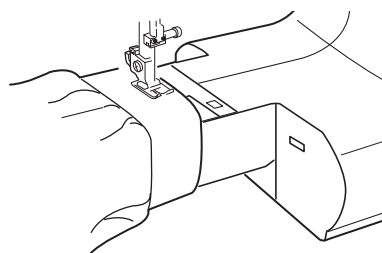
補助テーブルを開けると、押さえ等の小物が収納できます。

★補助テーブルのはずし方



補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いてはずします。
※ 取り付けるときは、フリーアームに合わせ、ピンを本体の穴に入れて取り付けます。

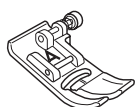
★フリーアームの使い方



そでぐちやすそなどのぬい、およびふくろ物のくち端の始末に利用します。

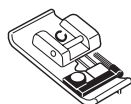
●標準付属品

(押さえには、記号を表示してあります。)

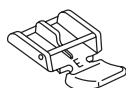


A 基本押さえ

※ A 基本押さえはミシンについています。



C 裁ち目かがり押さえ



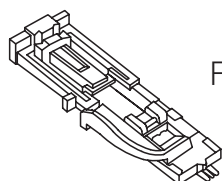
E ファスナー押さえ



F サテン押さえ



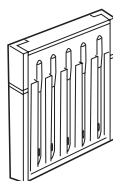
G まつりぬい押さえ



R ボタンホール押さえ



キルター



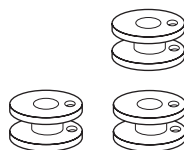
針と針ケース

- ・ 11 番 2 本
- ・ 11 番 1 本 (ジャンメブルー針)
- ・ 14 番 2 本

※ 針の番号は針に刻印されています。

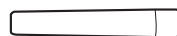


ドライバー



ボビン

※ もう 1 つは、ミシンの内がまに入っています。



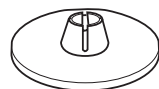
シームリッパー



ミシンブラシ



糸こま押さえ (小)



糸こま押さえ (大)

※ 糸こま押さえ (大) はミシンの糸立て棒についています。

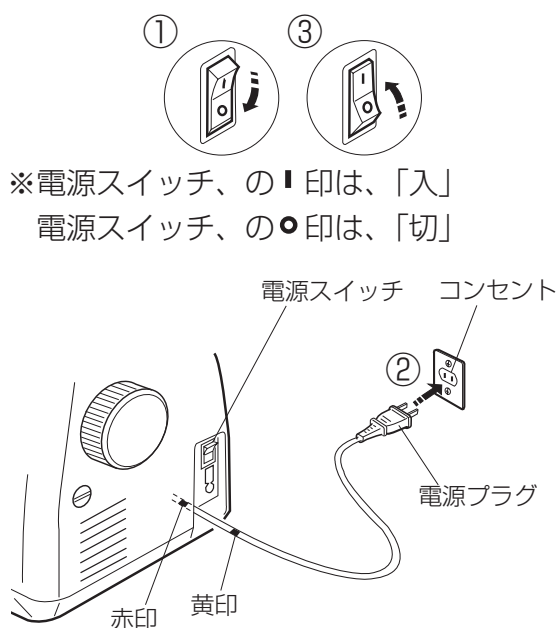
操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方

⚠ 警告

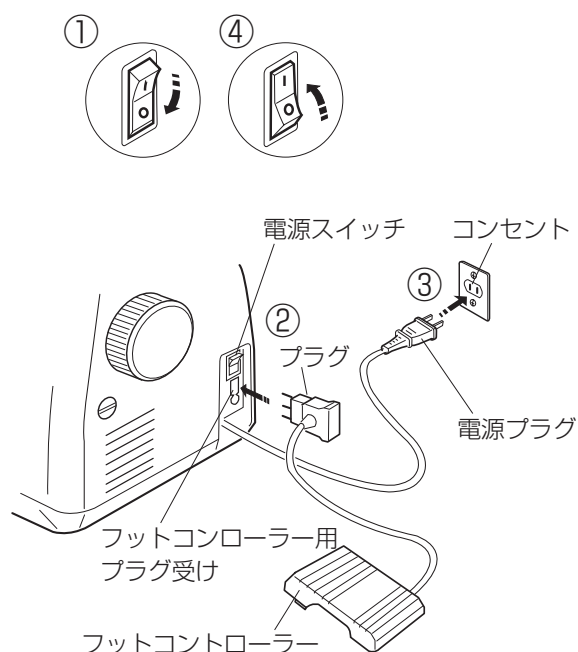
- ・ 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
ミシンを使わないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
感電、火災の原因になります。
- ・ 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり、火災の原因になります。

★スタート・ストップボタンを使用する場合



- ① 電源スイッチを「切」にします。
- ② 電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
- ③ 電源スイッチを「入」にします。

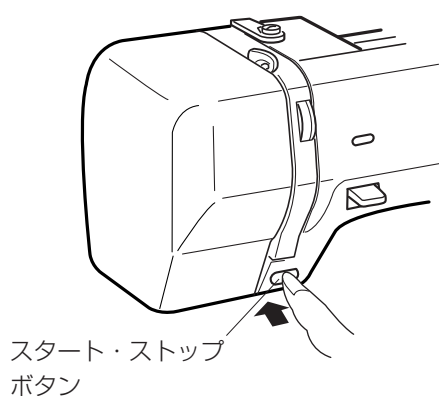
★ フットコントローラー（モデルにより別売り）を使用する場合



- ① 電源スイッチを「切」にします。
- ② プラグをフットコントローラー用プラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを「入」にします。

- ※ 電源コードを引き出し過ぎると、故障の原因となります。
コードに記載された赤印以上は、引き出さないでください。
黄印が出てから約 30cm で赤印になります。
- ※ 電源コードをしまうときは、コードを少し引っ張ると自動で巻き取ります。電源プラグを持って取り出し口まで案内してください。
- ※ フットコントローラーを接続したときは、スタート・ストップボタンは使用できません。

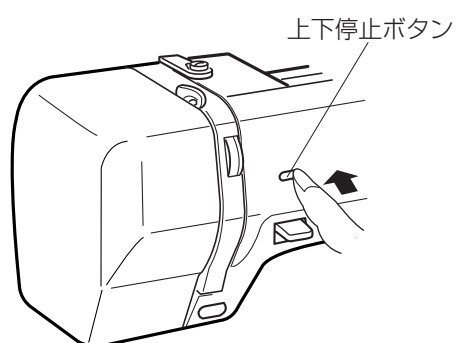
●スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりとぬってからスピードコントロールつまみでセットした速さでぬいはじめます。もう一度押すと、通常、針が上の位置で止ります。

- ※ 下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。

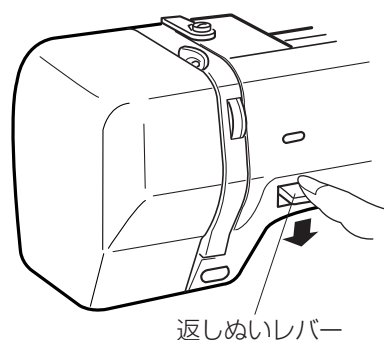
●上下停止ボタン



ミシンが止まっているときにボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

- ※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態からぬい始めると、下位置で止まります。(電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。)

●返しぬいレバー

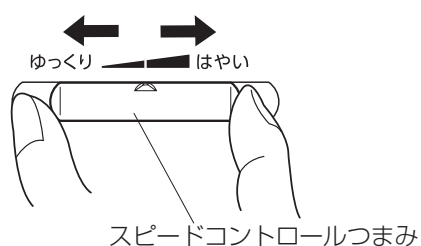


返しぬいレバーを押すと、ミシンは低速で返しぬいをはじめ、指をはなすと止ります。

ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはなすと、前進ぬいにもどります。

- ※ 不用意に返しぬいレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。
- ※ 返しぬいレバーを押したとき、返しぬいレバーが少し斜めになりますが、ミシンの特性によるものであり、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

●速さの調節



ぬう速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。

★フットコントローラー（モデルにより別売り）を使用する場合



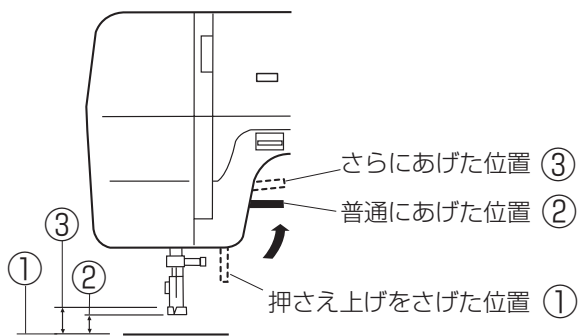
フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

※ スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

⚠ 注意

- ・ フットコントローラーの上に物を乗せないでください。けがや故障の原因になります。
- ・ フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けが、故障の原因になります。

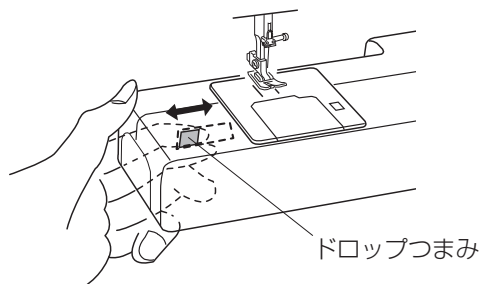
●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさをします。
押さえ上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげると、押さえはさらにあがります。
厚い布を入れるときにご使用ください。

- ①さげた位置
..... ぬいのときは、さげておきます。
- ②普通にあげた位置
..... 布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえの交換のときにあげます。
- ③さらにあげた位置（固定することはできません。）
..... 厚い布が入れやすくなります。

●ドロップつまみ（送り歯のあげ方、さげ方）

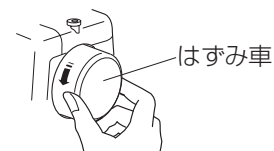


ボタンつけなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを動かします。

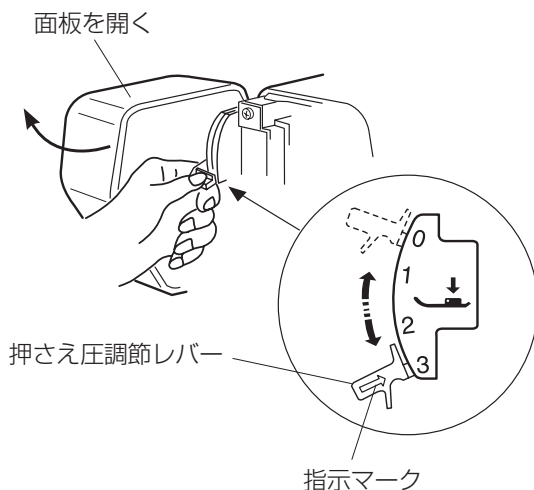
（送り歯をあげる位置） （送り歯をさげる位置）



※ ぬい終わったら「送り歯をあげる位置」にドロップつまみをもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認してください。



●押さえ圧の調節



面板を開き、押さえ圧調節レバーを動かし指示マークを数字に合わせます。

普通ぬいのときは押さえ圧調節レバーを「3」に合わせます。

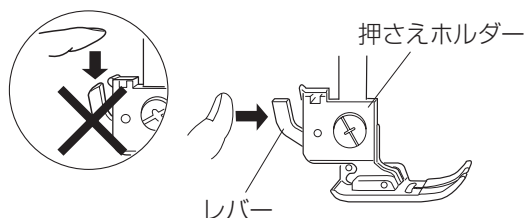
うす手の化繊地や伸縮性の布地をぬうとき、およびアップリケなどぬいしろ部分が重なりあうものをカーブしてぬうときなど、ぬいずれしやすい場合は押さえ圧調節レバーを「2」または「1」に合わせます。

しつけぬいのときは「0」に合わせます。

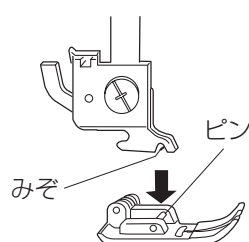
●押さえのとりかえ方

⚠ 注意

押さえのとりかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。
押さえは、模様に合ったものをご使用ください。押さえが合っていないと、針が押さえに当たり針折れしてけがの原因になります。



- ① 押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを押して、押さえをはずします。
※ レバーを上から押さないでください。
故障の原因になります。

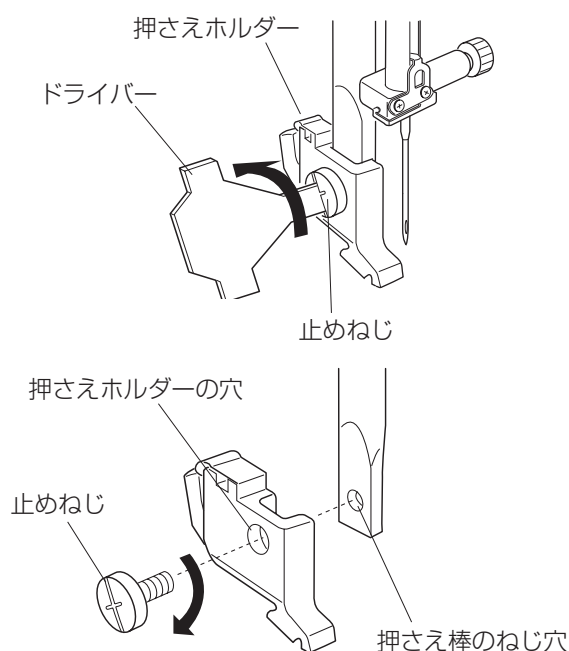


- ② 押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて押さえ上げを静かにおろします。

●押さえホルダーのはずし方、つけ方

⚠ 注意

押さえホルダーをはずすとき、つけるときには、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因となります。



〈はずし方〉

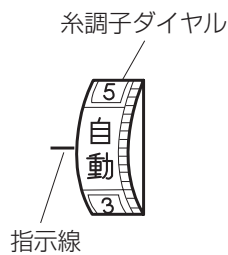
押さえ上げをあげ、押さえをはずし止めねじを左にまわしてはずします。

〈つけ方〉

押さえホルダーの穴と、押さえ棒のねじ穴を合わせ止めねじをさしこみ、右にまわしてしっかりつけます。

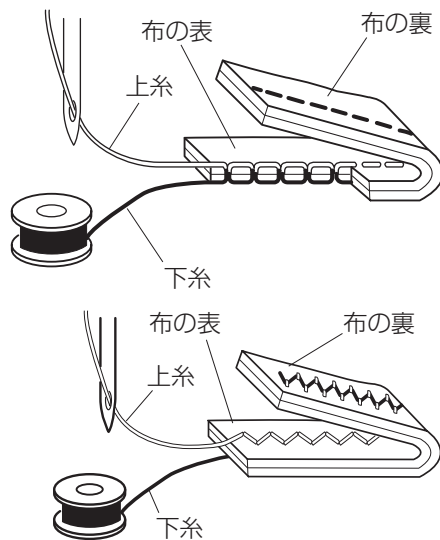
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子



このミシンは、糸調子ダイヤルを「自動」に合わせると、普通ぬいのおきにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。



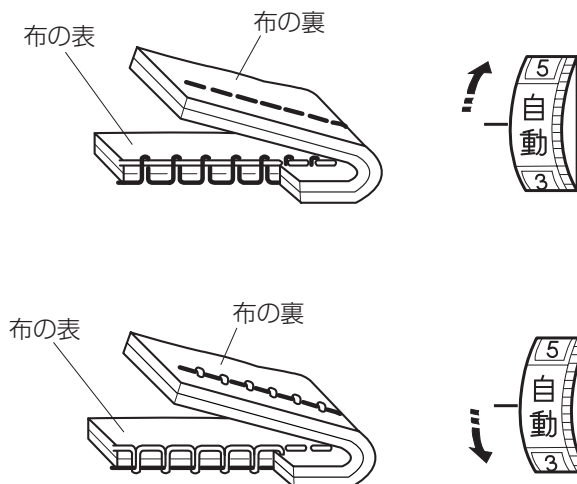
【バランスのとれた糸調子】

○直線ぬいのおきは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

○ジグザクぬいのおきは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。



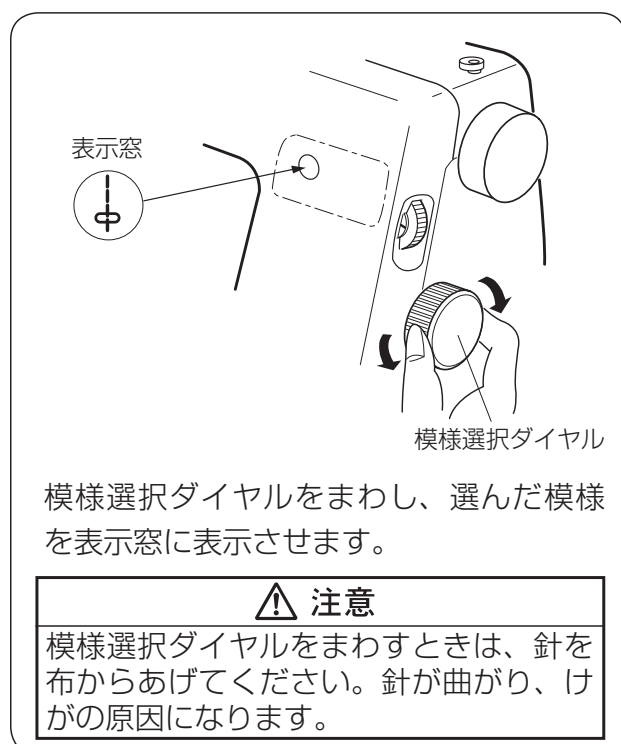
【上糸が強すぎる時】

下糸が布の表に出ます。
・・・小さな数字に合わせます。

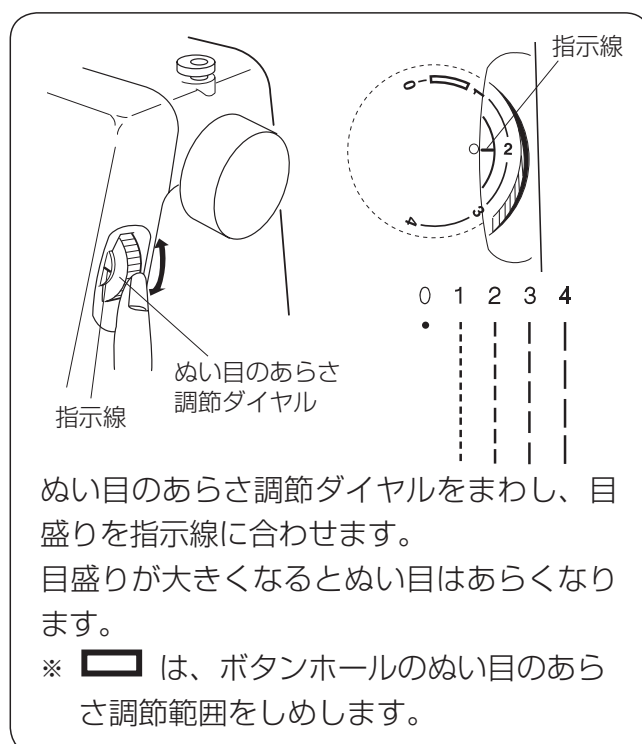
【上糸が弱すぎる時】

上糸が布の裏に出ます。
・・・大きな数字に合わせます。

●模様選択ダイヤル



●ぬい目のあらか調節ダイヤル



●各模様と押さえの関係

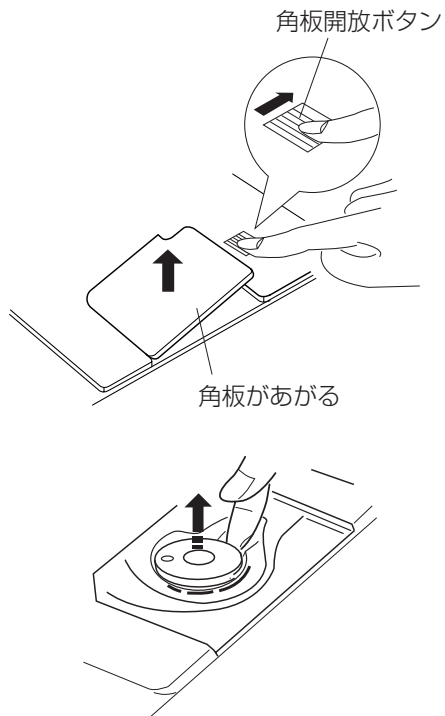
模 様	BH1 BH2	— — — —	1 2 3 — — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
主 な 用 途	芯入りボタンホール ボタンホール	直線ぬい ファスナーつけ（— — 模様使用）	ジグザグぬいとかがりぬい	まつりぬい	トリコットぬい裁ち目かがり	シエルタック	スカラップ・飾りぬい	かがりぬいステッチ	パッチワーク・ファゴティング スモッキング	伸縮ぬい	三重ぬい	スーパー模様
押 さ え 記 号	R	A・E・G	A・F	G	A	F	F	C	A	A	A	

※スーパー模様は、ぬい目のあらか調節は必要ありません。

●下糸の準備をしましょう

※ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

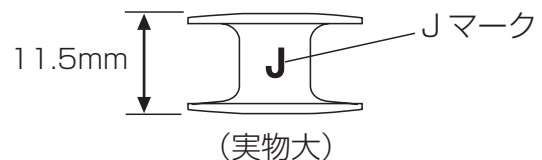
★ボビンをとり出します



角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンを取り出します。

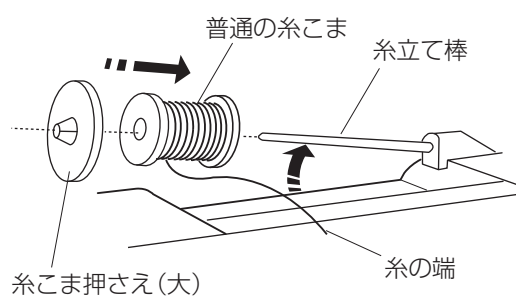
お願い

ボビンは当社専用のJマーク付きプラスチックボビンを使用してください。
(お買い上げの販売店へご相談ください。)



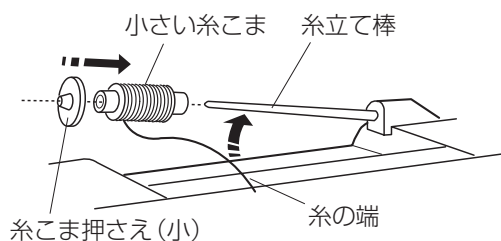
★糸こまのセット

【普通の糸こまのとき】



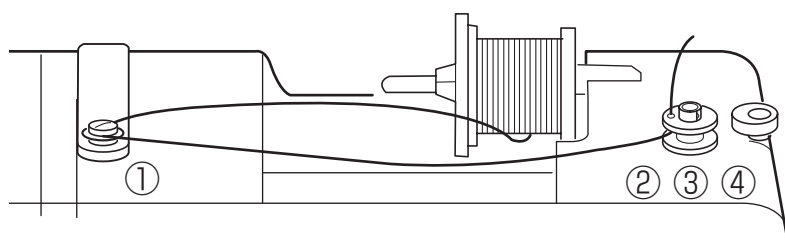
糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前になるようにして糸こまを入れ、糸こま押さえ（大）で糸こまを押さえます。

【小さい糸こまのとき】

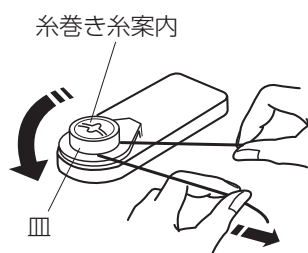


小さい糸こまを使用のときは、糸こま押さえ（小）を使用します。

★ボビンに糸を巻きます

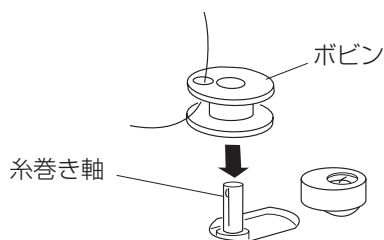


※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやり」の位置でご使用ください。

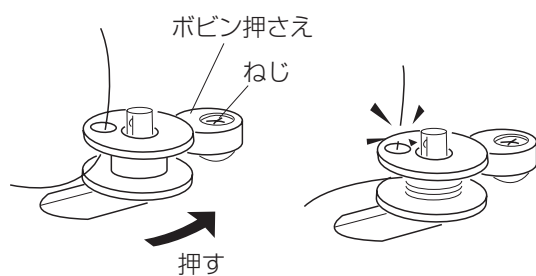


- ① 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、矢印方向にまわして、糸巻き糸案内に糸をかけます。

※ 皿の間に確実に入れてください。均等に巻くことができます。



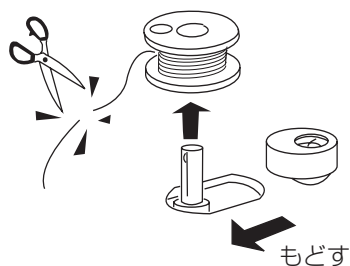
- ② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。



- ③ 糸巻き軸をボビン押さえの方に押しつけます。糸の端をつまんだままスタート・ストップボタンを押して巻きはじめます。

糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

※ ボビン押さえのねじは、さわらないでください。



- ④ 再びミシンを動かし、巻き終わったらミシンを止めます。

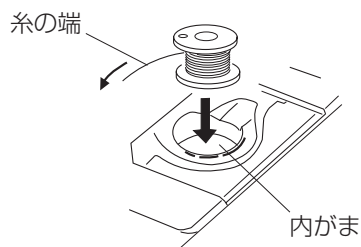
糸巻き軸をもとにもどし、糸巻き軸よりボビンをはずして糸を切ります。

※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

★ボビンを内がまにセットします

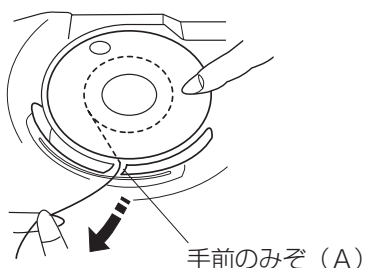
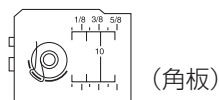
⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。



① 角板をはずし、糸の端を矢印方向に出して、ボビンを内がまに入れます。

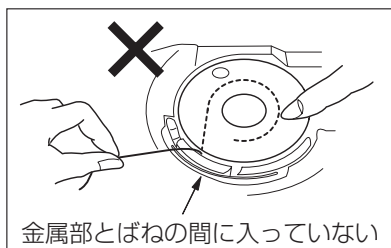
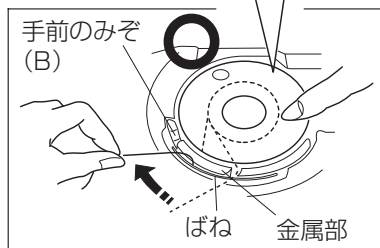
※ 角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。



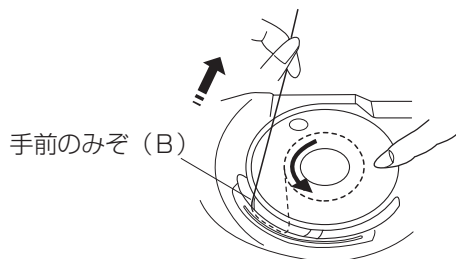
② 糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。

※ 糸をかけるときは、ボビンが回転しないように指でボビンを軽く押さえます。

※ 糸をかけるときは、ボビンが回転しないように、指で押さえてください。

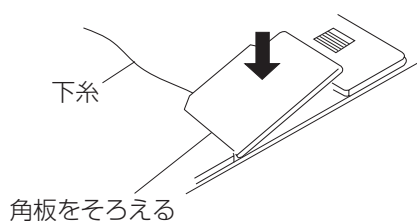


③ 糸の端を引き、金属部とばねの間を通しながら左側のみぞ（B）のところに出示します。



④ 糸を手前のみぞ（B）にかけるようにして向こう側に出します。

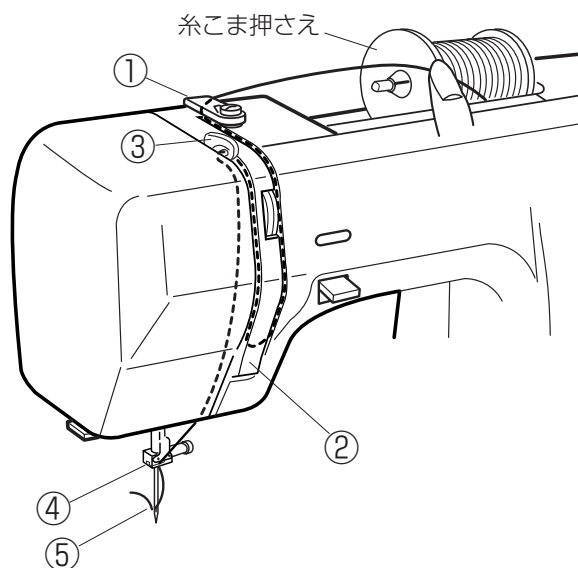
※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。



⑤ 下糸を 10cm くらい引き出して、角板の左側を針板に合わせて付けます。

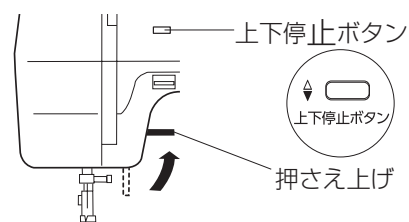
●上糸の準備をしましょう

★上糸をかけます



【お願い】 はじめに、準備を必ず行ってください。ぬい不良の原因になります。

【準備】



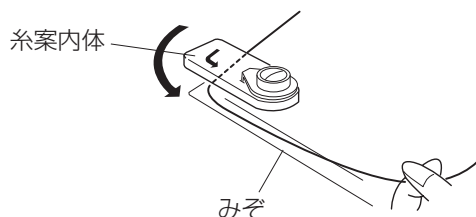
1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源を入れ、上下停止ボタンを押して、針と天びんを上にあげます。
3. 電源を切ります。

⚠ 注意

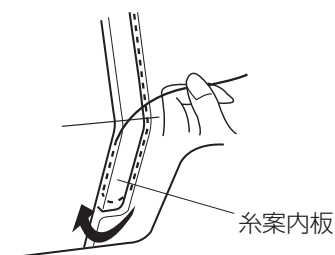
上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。

※ 糸こまはすれ防止のため、必ず糸こま押さえを使用してください。

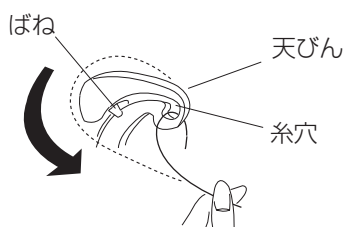
※ 糸を確実にかけるため、常に糸こま側の糸を押さえながら、糸を強めに引いてかけてください。



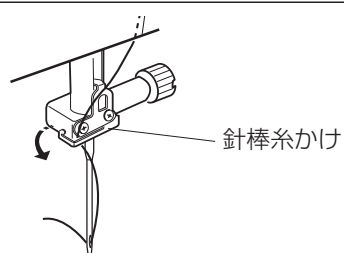
- ① 糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押さえながら、糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。



- ② 糸こま側の糸を軽く押さえながら、糸案内板の下をまわして、左上に引きあげます。
※ 押さえ上げがあがっていないと、正しく糸が通らないのでぬい不良の原因になります。押さえ上げがあがっているか確認してください。



- ③ 天びんの右からうしろをまわして手前に引き、ばねを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。

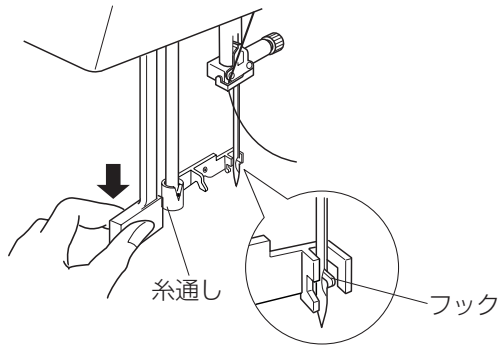


- ④ 針棒糸かけに左からかけます。
- ⑤ 糸通しを使って針に糸を通します。
(糸通しの使い方は、16 ページをごらんください。)

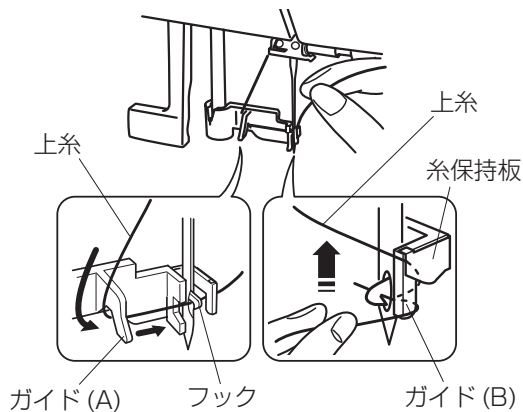
●糸通しの使い方

⚠ 注意

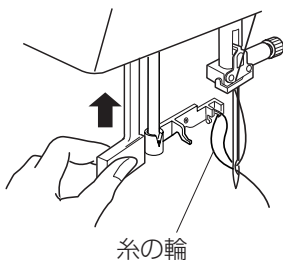
糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。



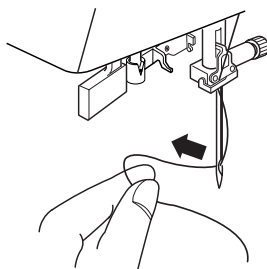
- ① 上糸かけのときに上下停止ボタンで針と天びんをあげた状態のまま糸通しを止まるまで引きさげます。
糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。
- ※ 針穴にフックが入っているか、確認してください。



- ② 糸をガイド (A) の左側から下にまわしてガイド (B) にかけます。
- ※ 糸はフックの下を通ります。
- ③ ガイド (B) にかけた状態で糸を手前にまわし、そのままガイド (B) の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。



- ④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。



- ⑤ 糸の輪を糸通しからはずし、糸の輪を向こう側に出してから、針穴から糸の輪を引き出します。



針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。

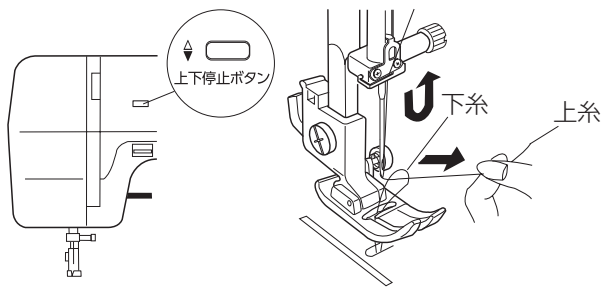


糸は50～90番が使えます。

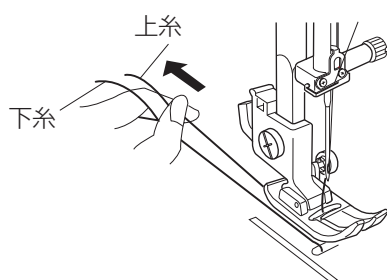
●下糸を引きあげるには



- ① 押さえ上げをあげ、上糸を指で押さえておきます。



- ② 電源を入れ、上下停止ボタンを2回押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

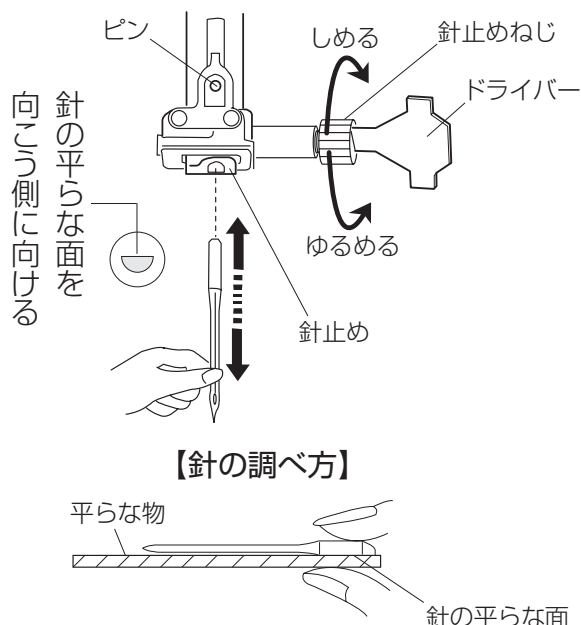


- ③ 上糸、下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて出します。

●針のはずし方、つけ方

⚠ 注意

針をはずすとき、つけるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。けがの原因となります。



※針をあげ、押さえ上げをさげます。

〈はずし方〉

針止めねじを手前に 1 ～ 2 回まわしてゆるめ、針をはずします。

〈つけ方〉

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めに差し込んで、針止めねじをかたくしめます。

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないでください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 難～ 11 番
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	絹 糸 50 番 綿 糸 60 番～ 80 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～ 90 番	11 番～ 14 番
		綿 糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹 糸 50 番 綿 糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番～ 50 番	14 番～ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿 糸 30 番	16 番

※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。

この表を目安に針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※ 原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

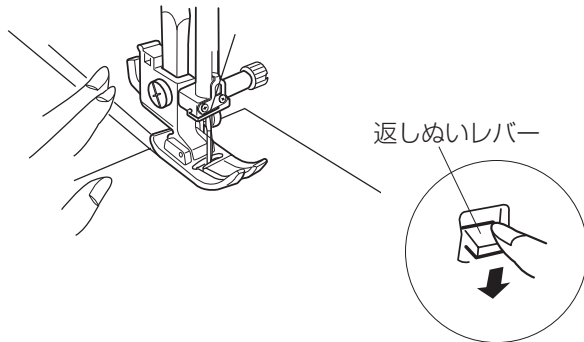
※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャンメブル針を使用すると目とび防止効果があります。

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい

セッ トの 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
	 または 	A 基本押さえ	1.5 ～ 4	自動

★ぬいはじめ

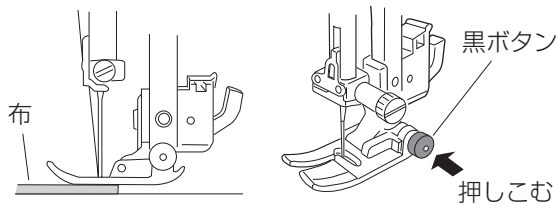


上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、ぬいはじめます。

※ ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

★厚手の布端のぬいはじめ

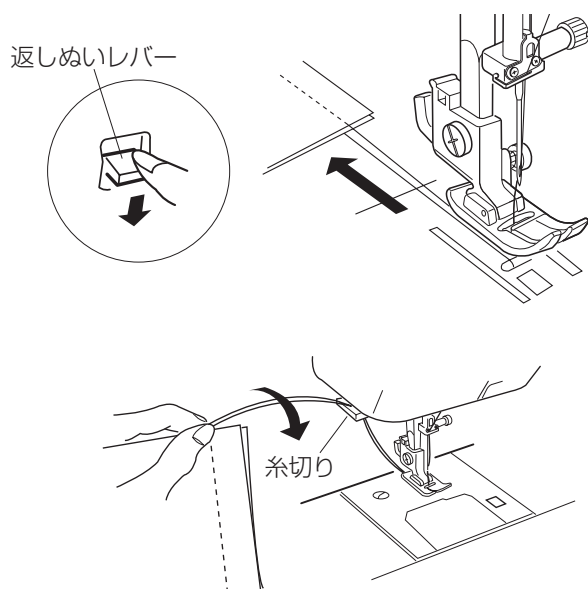


① ぬいはじめの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

② 黒ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。

黒ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。押さえが完全に布の上にとると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

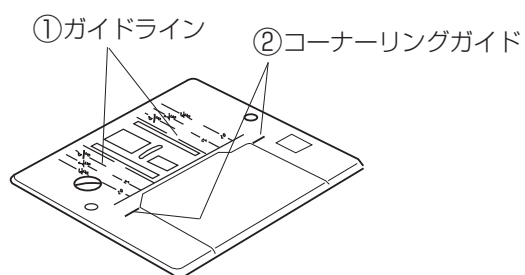
★ぬいおわりと糸の切り方



返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

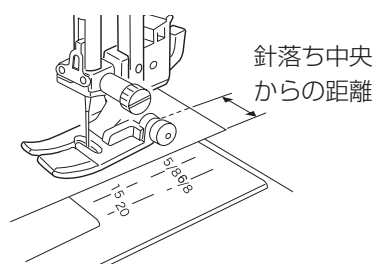
糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用



針板および角板には、布のぬい位置をきめるために便利なガイドラインを表示しています。

①ガイドラインの利用



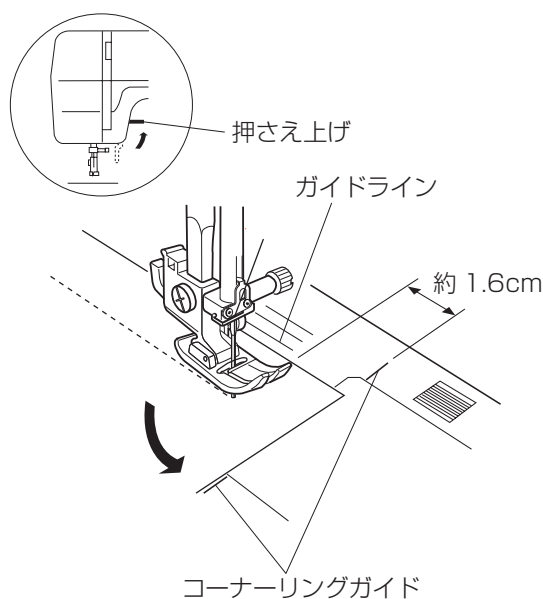
布端を角板及び針板の左右にあるガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。

※ 数字は、針落ち中央からの距離です。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

②コーナーリングガイドの利用

布端から 1.6cm のところで直角にぬい方向をかえるときに使います。

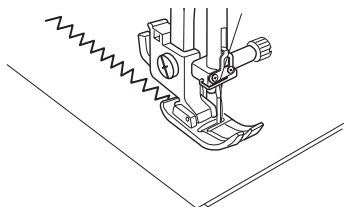


- 1 布端がコーナーリングガイドの所にきたら、ミシンを止め、はずみ車を手前にまわして針を布にさします。
- 2 押さえ上げをあげ、布を回転させてガイドラインの 1.6cm (5/8 インチ) に合わせます。
- 3 押さえ上げを下げ、ミシンをスタートします。

●ジグザグぬいとかがりぬい

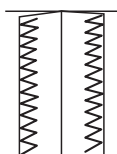
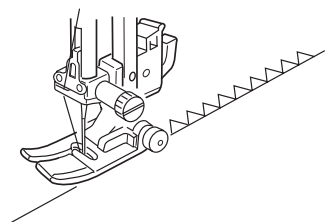
セッ トの 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
	1  2  3 	A 基本押さえ	ジグザグぬい ...0.5 ~ 4 かがりぬい1 ~ 2	自動

【ジグザグぬい】



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には伸びにくい芯地を貼るとききれいにぬえます。

【ジグザグぬい裁ち目かがり】

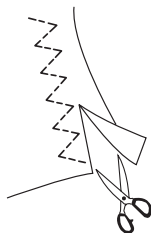
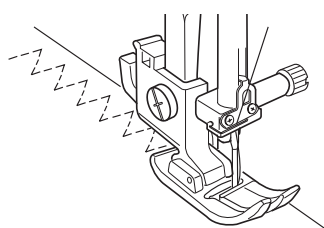


※模様は  を選びます。

中厚地の布端のほつれ止めとして利用できます。針を布端より少し外側に落としながらぬってください。

●トリコットぬい裁ち目かがり

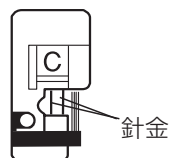
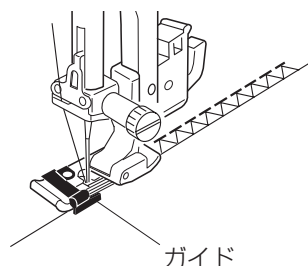
セッ トの 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
		A 基本押さえ	0.5 ~ 1.5	自動



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

●かがりぬいステッチ

セッ トの 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
		C 裁ち目かがり押さえ	※ ぬい目のあらさ調節は必要ありません。	自動



※ ぬう前に必ず押さえの針金に針があたらな
いことを確認してください。

布端を裁ち目かがり押さえのガイドにあててぬ
います。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め
に利用します。

●まつりぬい

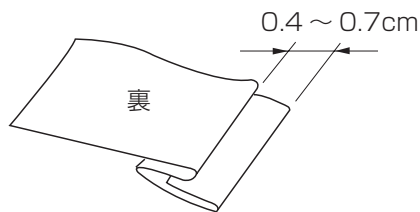
セッ トの 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
		Gまつりぬい押さえ	1 ～ 3	自動

※スカートやワンピースなどの裾のまつりができます。

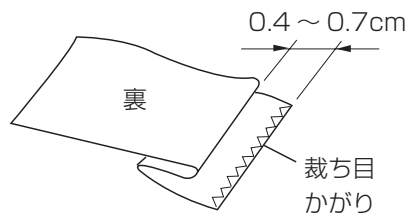
(布の折り方)

布を折るときは、裏を表にして下に折り込み、布端を 0.4 ～ 0.7cm ほどはみ出させます。

(うすい布、普通の布の場合)

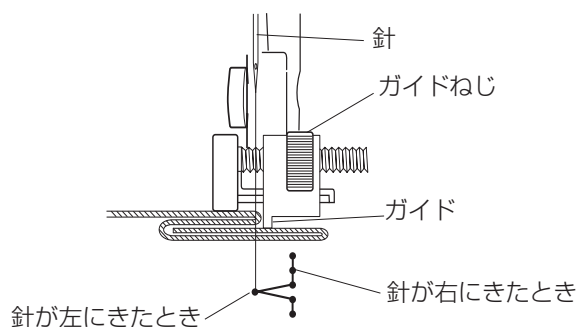


(厚い布の場合)



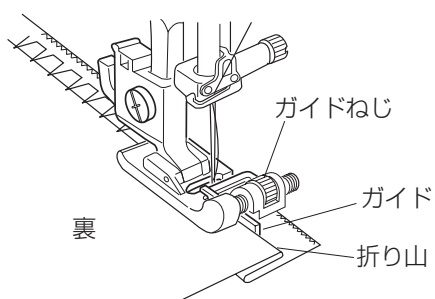
※ 厚い布の場合は、布端に裁ち目かがりをかけてから折ります。

(ガイドの合わせ方)



ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせます。

(ぬい方)



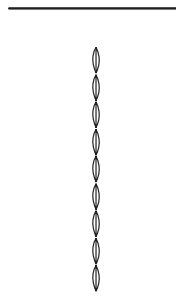
- ① 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押さえ上げをさげます。
- ② 針が折り山からはずれないようにぬいます。
- ③ ぬいおわたたら布をひろげます。

※ 左側における針が必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんので注意してください。



●三重ぬい

セ ッ ト の 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
		A 基本押さえ	※ ぬい目のあらさ調節は必要ありません。	自動

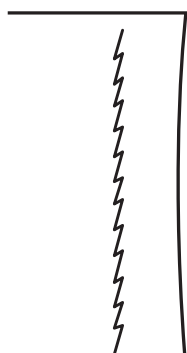


丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬいなどに便利です。

※ 布が前後するのでぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

●伸縮ぬい

セ ッ ト の 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
		A 基本押さえ	※ ぬい目のあらさ調節は必要ありません。	自動



布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。

ニット地の地ぬいなどに使用します。

※ 布が前後するのでぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

●ボタンホール

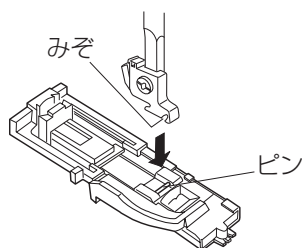
セットの目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらかさ	糸調子ダイヤル	ボタンホール切りかえレバー
	 BH1 (幅大) または BH2 (幅小)	R ボタンホール 押さえ	0.5 ~ 1 (の範囲)	自動	 ボタンホール切りかえレバー

※ ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。

※ ボタンの直径が 1.0 ~ 2.5cm までのボタンホールができます。

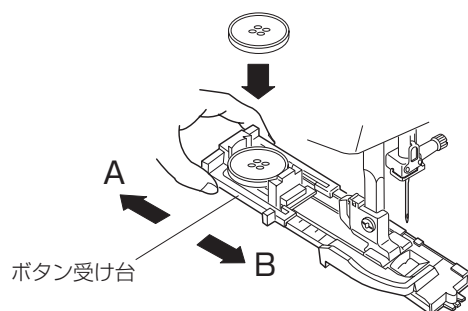
※ 必ずぬい布で試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。

※ 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。



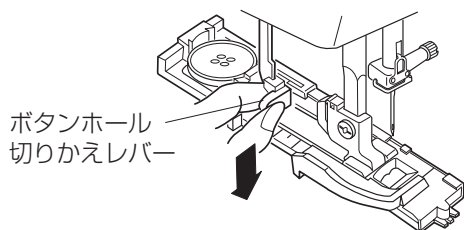
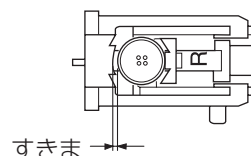
- ① 針と押さえ上げをあげ、押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

※ 押さえをとりつけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

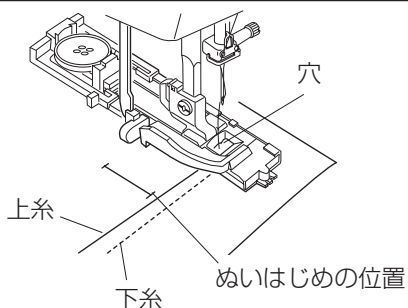


- ② ボタン受け台を A 方向に引き、ボタンをのせて B 方向にもどし、はさみます。

※ ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

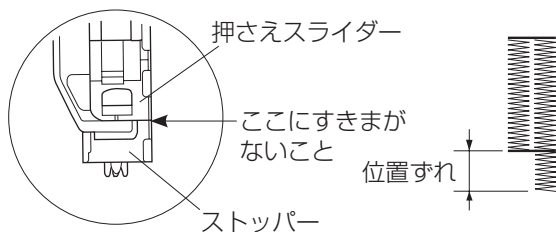


- ③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい引きさげます。

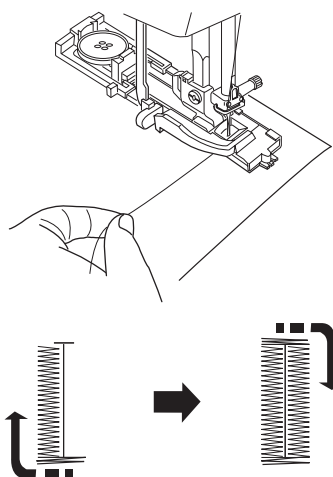


- ④ 押さえ上げをあげて、上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出します。

布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬいはじめの位置に針をさして押さえ上げをさげます。



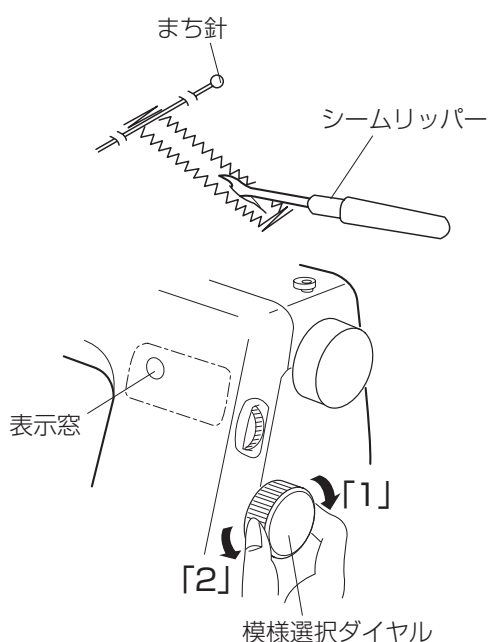
※ ぬいはじめに、押さえスライダーとストッパーの間にすきまがないことを確認してください。すきまがあると、ぬいはじめの位置ずれになります。



- ⑤ 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせ、（ぬいはじめてから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。）自動的に止まるまでぬいます。

※ ぬいおわると、表示窓の模様が点滅します。

- ⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10cm くらい残して切ります。
下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

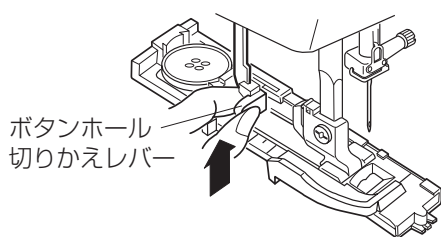


- ⑦ かんぬきの内側にまち針をさし渡して、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

【引き続きボタンホールぬいをする場合】

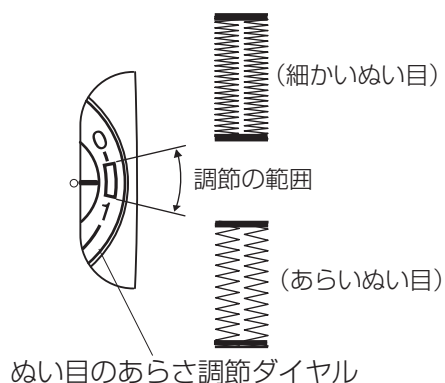
一度模様選択ダイヤルを「1」または、「2」方向にまわして、他の模様を選んだ後、再びボタンホール模様を選びます。

この操作をすると表示窓の模様が点滅から点灯にかわり、ボタンホールぬいがリセットされ、次のボタンホールがぬえます。



- ⑧ ぬいがおわったら、ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい押しあげてもどします。

★ぬい目のあらかさ調節



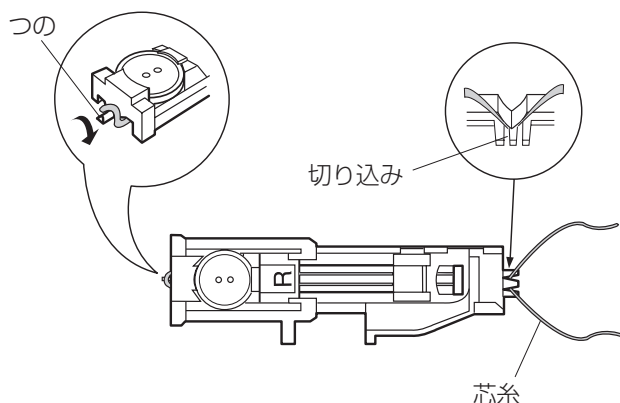
ボタンホールのぬい目のあらかさは、ぬい目のあらかさ調節ダイヤルの  の範囲で調節します。

●芯入りボタンホール

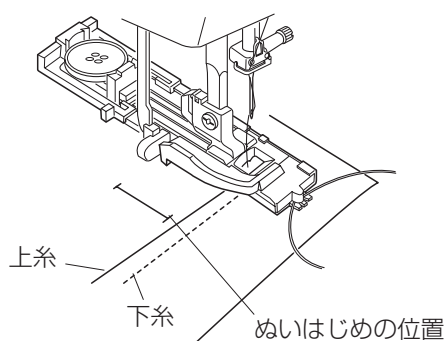
セッ トの 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
	 BH1 (幅大) または  BH2 (幅小)	R ボタンホール押さえ	0.5 ~ 1 ( の範囲)	自動

※ 芯糸を入れてぬうと丈夫なボタンホールができます。

※ 芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。

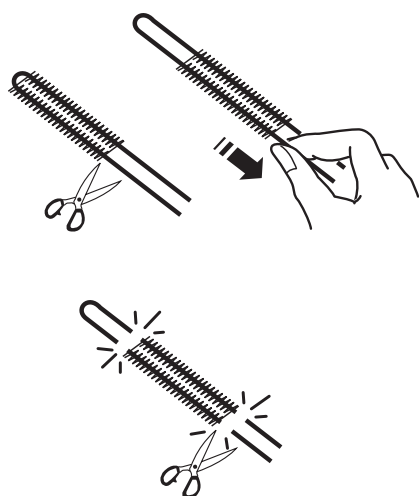


① つのにかけた芯糸を、押さえの下に通して、前側の切り込みにはさみます。



② ぬいはじめの位置に針をさして押さえ上げをさげ、ぬいます。

※ ぬい方はボタンホールぬい手順と同じです。

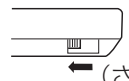


③ 芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

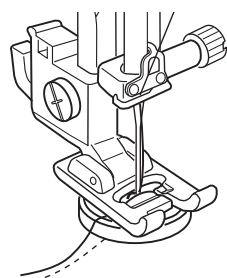
※ 芯糸を引けないときには、前後の芯糸を切ります。

※ 穴の開け方は、25 ページをごらんください。

●ボタンつけ

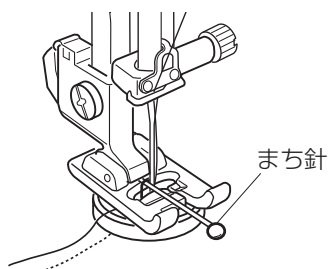
セットの目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ
	1  2  3 	F サテン押さえ	※ ぬい目のあらさ調節は必要ありません。	自動	 (さげる)

※ 模様 1・2・3 は、ボタン穴の幅に合うものを使用してください。



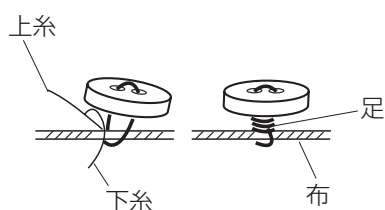
① はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。



③ 押さえの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。10 針くらいぬったら、上糸と下糸を 20cm くらい残して切ります。

※ ぬいはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。



④ 上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布のあいだに引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

⑤ ぬい終わったら、ドロップつまみをもとにもどします。

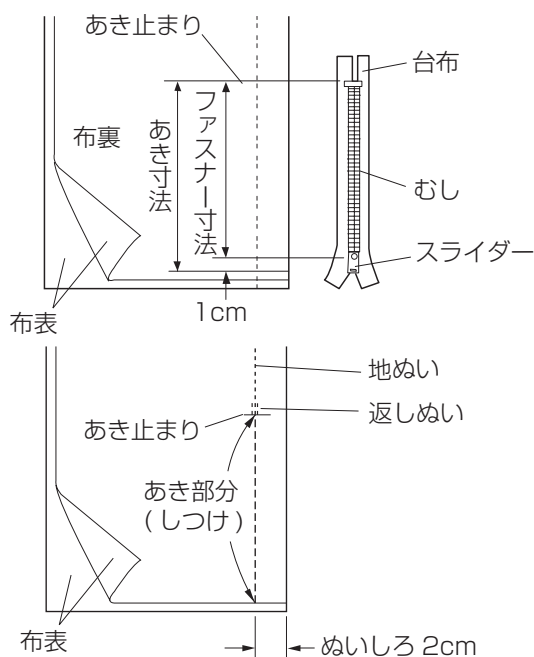
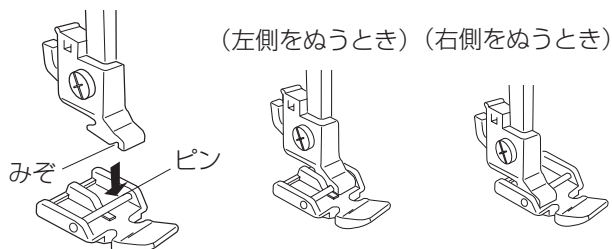
●ファスナーつけ

セッティング	模 様	押さえ	ぬい目のあかさ	糸調子ダイヤル
		Eファスナー押さえ	1.5 ～ 4	自動

※スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。

【ファスナー押さえのつけ方】

- 左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
- 右側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



【準備】例：左脇あきのぬい方

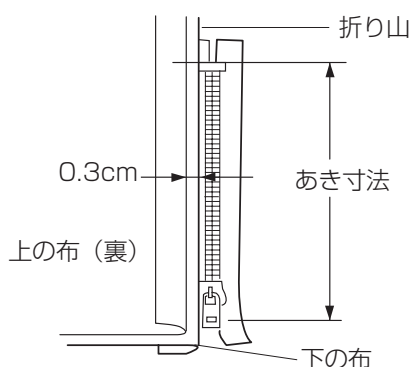
- ① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをし数針返しぬいをします。

※ 地ぬい部分は、A：基本押さえを使ってぬってください。

- ② あき部分のしつけをします。

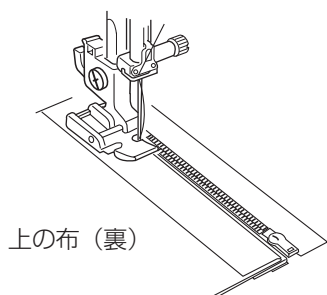
※ しつけは、ほどこやすくするために、ぬい目のあかさ4 (0.4 cm)、糸調子「1」くらいでぬい (しつけ) ます。しつけがおわったら、ぬい目のあかさ、および糸調子ダイヤルをもとの値にもどしてください。(糸調子ダイヤルは「自動」)

※ あき寸法はファスナー寸法に1cm プラスした寸法です。



【ぬい方】

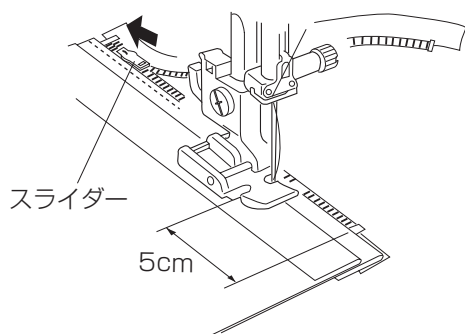
- ① ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



- ② 押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットします。

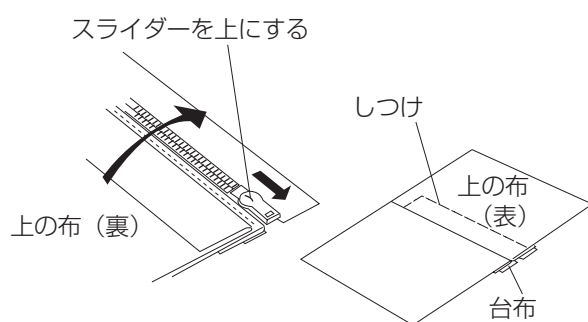
- ③ 押さえの端にむしのきわを当てて、あき止まりからぬいます。

※ ぬいはじめのほつれ止めは数針返しぬいをします。



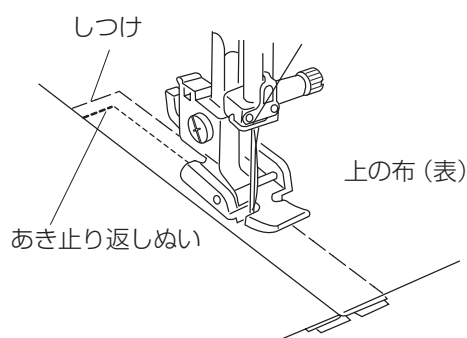
- ④ ファスナーの端から 5cm 手前でミシンを止め、針を布にさします。押さえ上げをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて端までぬいます。

※ ぬいおわりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



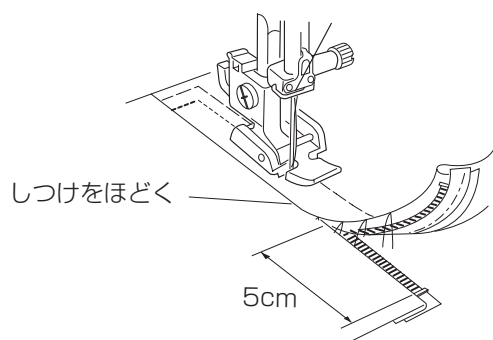
- ⑤ スライダーを上引きあげて、つまみの金具を上倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは A：基本押さえを使用します。
しつけは、ほどこきやすくするために、ぬい目のあかさ 4 (0.4cm)、糸調子「1」くらいでぬい (しつけ) ます。しつけがおわったら、ぬい目のあかさおよび糸調子ダイヤルをもとの値にもどしてください。(糸調子ダイヤルは「自動」)

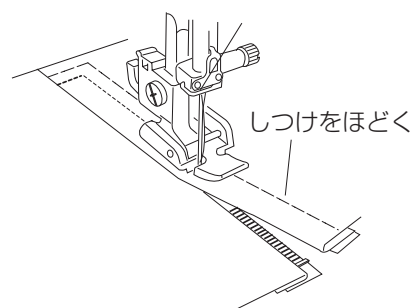


- ⑥ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。

- ⑦ 上の布のあき止まりを返しぬいをして、押さえの端にむしのきを当ててぬいます。



- ⑧ ファスナーの上側を 5cm くらい残したところで止め、はずみ車を手前にまわし針をさげ針を布にさしたままで押さえ上げをあげて、【準備】手順②でぬったしつけ糸をほどこきます。

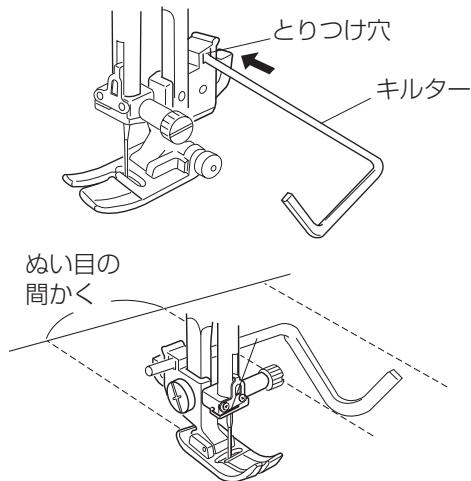


- ⑨ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬいおわったら、【ぬい方】手順⑤でぬったしつけ糸をほどこきます。

応用ぬいいろいろ

●キルティング

セッ トの 目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらかさ	糸調子ダイヤル
	 または	A 基本押さえ  +キルター	1.5 ~ 4	自動

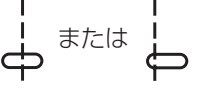


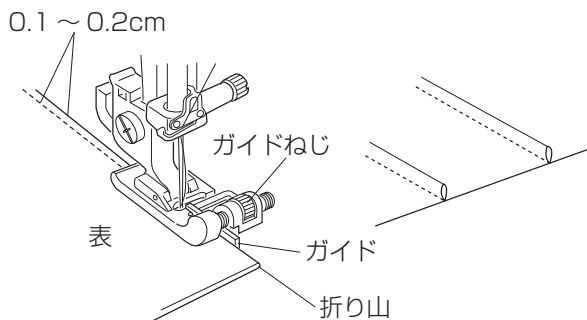
※ ぬい目を平行にぬっていく方法で、袋物などの装飾に利用します。

キルターをとりつけ穴に入れ、ぬい目の間かくに合わせます。

キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック

セッ トの 目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらかさ	糸調子ダイヤル
	 または	Gまつりぬい押さえ	1.5 ~ 3	自動



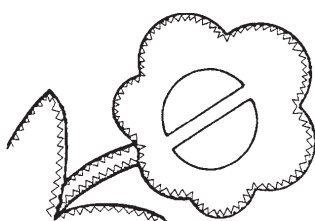
※ ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。

① はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1 ~ 0.2cm 内側におりるように布を置いて、押さえ上げをさげます。

② ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、ぬいます。

●アップリケ

セッ トの 目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらかさ	糸調子ダイヤル	押さえ圧調節
		F サテン押さえ	0.5 ~ 1	自動	「2」または「1」



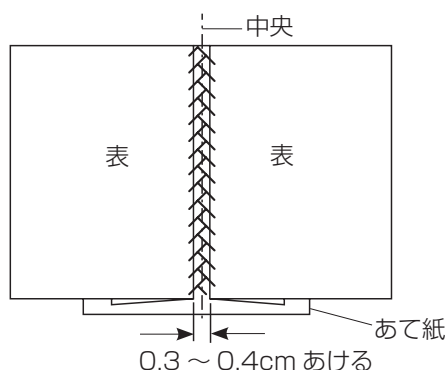
アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。アップリケ布のふちをぬいます。

※ カーブのところや方向転換をするところでは、アップリケ布に針がささった位置でミシンを止めます。

針をさしたまま押さえ上げをあげて方向をかせると、きれいに仕上がります。

●ファゴティング

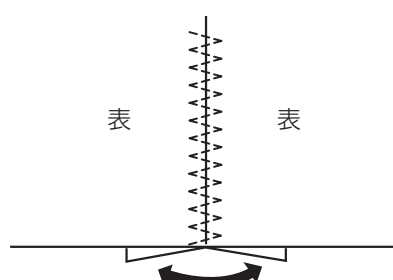
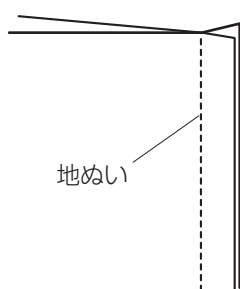
セットの目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらかさ	糸調子ダイヤル
		A基本押さえ	※ ぬい目のあらかさ調節は必要ありません。	自動



- ① 布端と布端の間かくを 0.3 ~ 0.4cm あけて、裏にあて紙をします。
- ② 布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。
- ③ あて紙をとります。

●パッチワーク

セットの目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらかさ	糸調子ダイヤル
	または	A基本押さえ	0.5 ~ 1.5	自動



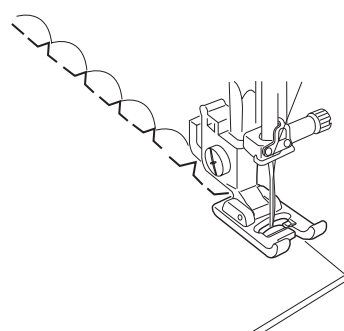
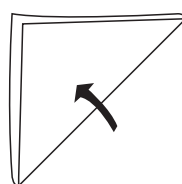
※ 模様 は、ぬい目のあらかさ調節は必要ありません。

布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。

布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●シェルタック

セットの目安	模 様	押さえ	ぬい目のあらかさ	糸調子ダイヤル
		Fサテン押さえ	2 ~ 3	6 ~ 8 ※ 糸調子は、試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに出るように調節します。

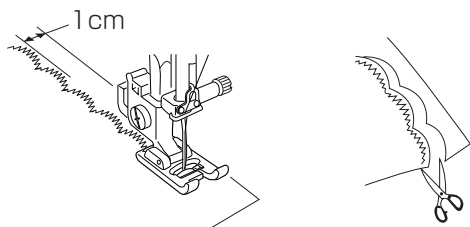


- ① うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押さえの下におきます。はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにしてぬいます。

- ② 布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

●スカラップ

セ ミ の 面 の 好	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
		Fサテン押さえ	0.5 ~ 1	自動

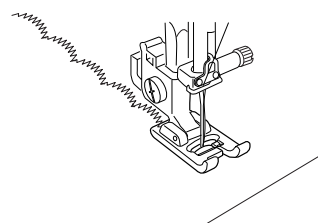


布の表から、布端を1cmくらい残してぬいます。
ぬいおわたたら、糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

※ 布が縮むときは、布の下に紙を敷くか、芯地を貼ってください。

●飾りぬい

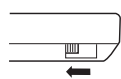
セ ミ の 面 の 好	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル
		Fサテン押さえ	0.5 ~ 1	自動

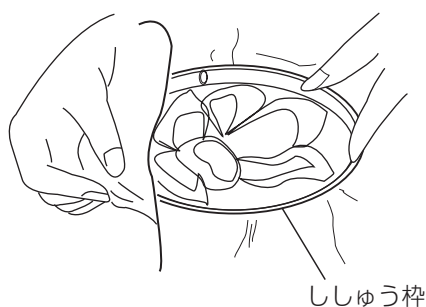


ぬい目のあらさを細かくすると、ぬい目がつまって布を送らなくなることがありますので、必ず試しぬいをして、布送りの確認をしてください。

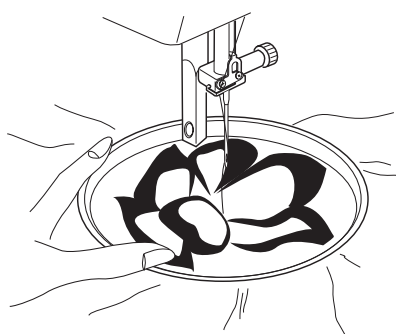
※ 布が縮むときは、布の下に紙を敷くか、芯地を貼ってください。

●ししゅう

セ ミ の 面 の 好	模 様	押さえ	ぬい目のあらさ	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ
	 または 	※ 押さえと押さえホルダーをはずします。	※ ぬい目のあらさ調節は必要ありません。	0 ~ 自動 ※ 布の裏側に上糸が少し出るくらいにゆるくします。	 (送り歯をさげます。)



ししゅう枠

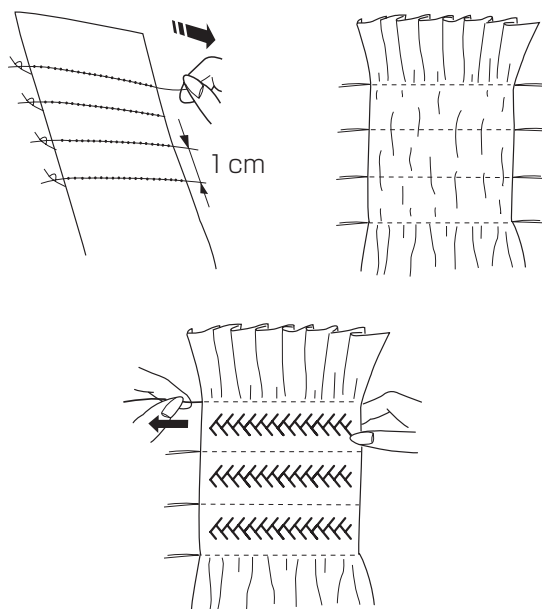


※ 模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチャコで印をつけてください。

- ① 布をししゅう枠にピンと張ります。
- ※ ししゅう枠は、標準付属には含まれていません。
- ② 送り歯をさげ、押さえと押さえホルダーをはずします。
- ③ 上糸の端を左手でつまみ、針をぬいはじめの位置にさし、押さえ上げをさげます。
- ④ はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。
- ⑤ 左手の指先で上糸と下糸を押さえて止めぬいをし、余分な糸を切ります。
- ⑥ ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくりぬいながら、針が布から抜けているあいだにししゅう枠を動かし、模様をぬいます。
- ※ 動いている針に手を近づけ過ぎて、ささないように気をつけてください。
- ⑦ ぬいおわたたら、ドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。

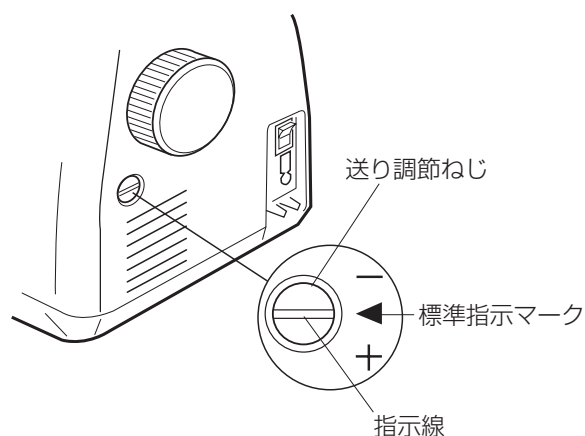
●スモッキング

セッ トの 目 安	模 様	押さえ	ぬい目のあ らさ	糸調子ダイヤ ル
		A 基本押さえ	※ ぬい目のあ らさは必要あり ません。	自動



- ① 糸調子ダイヤルを 1 ～ 3 にして、ぬい目のあ
らさ 0.3 ～ 0.4cm の直線ぬいを、1 cm
間隔で数本ぬいます。
※ ぬいおったら糸調子ダイヤルを「自動」
にもどします。
- ② 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から
下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結
びます。
- ③ 直線ぬいの糸と糸の間に模様ぬいをしてか
ら、直線ぬいの糸を抜きとります。

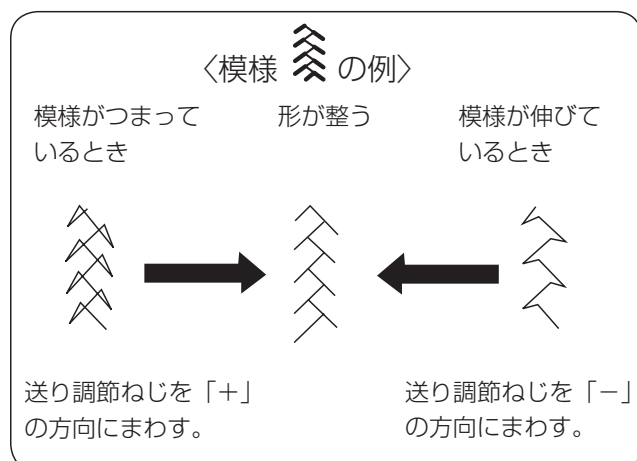
●スーパー模様の形の整え方



※ スーパー模様は です。

布の種類、枚数、ぬいの速さなどによっては、
模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬ
うときと同じ条件で試しぬいをしながら送り調
節ねじでつぎのようにして調節してください。

※ 標準指示マークと指示線が一致する位置が、
模様を正しくぬえる目安の位置です。



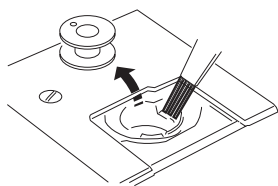
ミシンのお手入れと調整

●ミシンのお手入れ

⚠ 注意

- ・お手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ・お手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。
感電・けが・故障の原因になります。

★かまの掃除

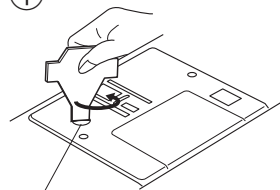


- ① 角板をはずし、ボビンを取り出して、糸くずやほこりをミシンブラシで掃除します。

★かまの分解

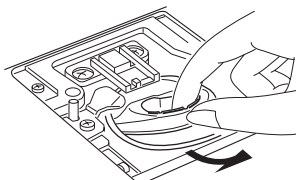
※ 針と押さえは、とりはずしてください。

①



針板しめねじ

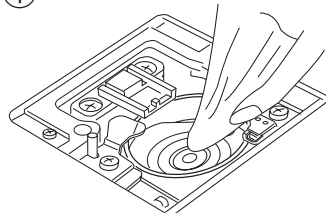
②



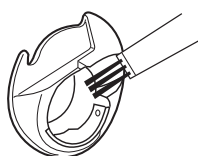
- ① 針板しめねじをはずし、針板をはずします。
- ② ボビンを取り出し、内がまの手前を上へ引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除

①



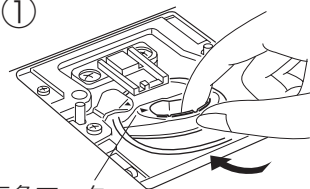
②



- ① 送り歯のごみをミシンブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ② 内がまを、ミシンブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て

①

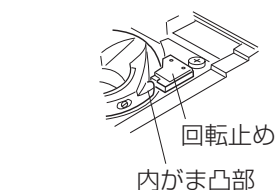


三角マーク

②



針板ガイドピン

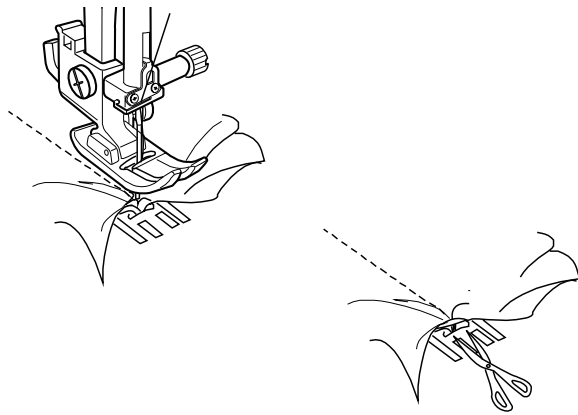


回転止め
内がま凸部

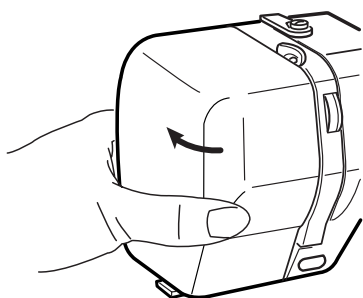
- ① 内がまを差し込み三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
- ② ボビンを入れ2か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、針板しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる。	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. ぬいはじめに、上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	15 ページ参照 10 ページ参照 18 ページ参照 18 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 18 ページ参照
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸がゆるく巻かれている。	14 ページ参照 34 ページ参照 ボビンを交換する 巻く速度を速くする
針がおれる。	1. 針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様にあった押さえを使用していない。	18 ページ参照 18 ページ参照 19 ページ参照 18 ページ参照 押さえを交換する
ぬい目がとぶ。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブルー針を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	18 ページ参照 18 ページ参照 18 ページ参照 15 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる	10 ページ参照 14、15 ページ参照 18 ページ参照
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	34 ページ参照 ぬい目をあらくする 8 ページ参照
ぬい目に輪ができる。	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	10 ページ参照 18 ページ参照
ミシンがまわらない。	1. コンセントに、プラグがきちんと差し込まれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元にもどっていない。(糸巻状態になっている) 4. フットコントローラを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。 5. 天びん内部に糸がからんでいる。	5 ページ参照 34 ページ参照 13 ページ参照 5 ページ参照 面板を開き糸を取り除く 【面板を開くとき】 36 ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1. ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2. 布に対してぬい目のあさが合っていない。 3. 伸縮性のある布のとき、伸びにくい芯地を使っていない。	24 ページ参照 25 ページ参照 24 ページ参照
音が高い。	1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	34 ページ参照 34 ページ参照

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
ぬい目に下糸が出る。	1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。 5. ジャノメのボビンを使用していない。	14 ページ参照 12 ページ参照 15 ページ参照 10 ページ参照 12 ページ参照
ぬいはじめの糸がらみ。	1. 上糸のかけ方がまちがっている。	15 ページ参照
うすい布、伸縮性の布の食い込み。	1. 布に対して針と糸が合っていない。 2. 左針位置でぬっていない。	18 ページ参照 左針位置でぬう
布裏で糸がからまる。	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 	【からまっている糸のとり方】 1 電源スイッチを切る。 2 押さえと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る。 3 針板をはずす。 (34 ページ参照) 4 ボビン、内がまをはずし、からまっている糸を切る。 5 ボビン、内がま、針板を取り付ける。 (34 ページ参照) 6 上糸をかけ直す。 (15 ページ参照)
上糸が抜ける。	1. 糸の通し方がまちがっている。 2. ぬいはじめの位置に針をさしていない。	16 ページ参照 19 ページ参照
ぬいおわりに下糸が二重に出てくる。	1. 天びんが上にあがっていない。	ぬい終わりに天びんを上にあげる
かまに糸がからまる。	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。	15 ページ参照 かまの交換 34 ページ参照
音がして糸がからまる。	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	15 ページ参照 15 ページ参照
糸通しができない。	1. 針と天びんが上にあがっていない。	16 ページ参照

【面板を開くとき】



〈開け方〉

面板の手前を左側（矢印方向）にまわすと開きます。

〈閉じ方〉

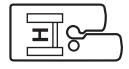
面板をミシンの方へ押しつけて閉じます。

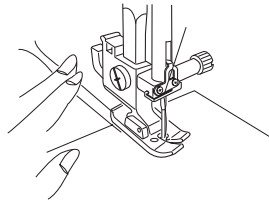
別売品のご紹介

1. 直線押さえ (NO.823801107)

●直線ぬい

〈セットの目安〉

模様.....	
糸調子ダイヤル.....	自動
ぬい目のあかさ.....	1.5 ~ 4
押さえ.....	 H直線押さえ



《ぬい方》

糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押さえ上げをさげて、ゆっくりぬいはじめます。

2. 三つ巻き押さえ (NO.820809014)

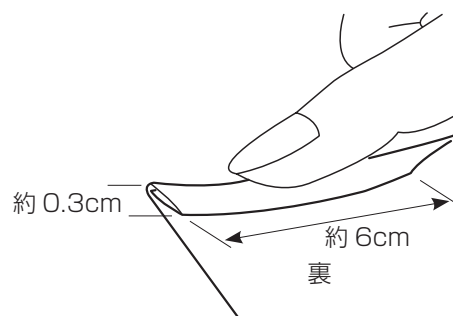
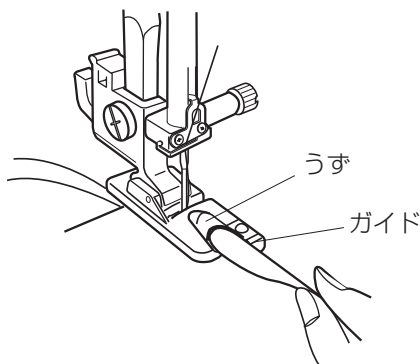
●三つ巻きぬい

〈セットの目安〉

模様.....	
糸調子ダイヤル.....	自動
ぬい目のあかさ.....	1.5 ~ 4
押さえ.....	 D三つ巻き押さえ

《ぬい方》

- ① 布端の長さ約 6cm を、約 0.3cm の幅で 2 度折り曲げます。
- ② 上糸と下糸をそろえて、押さえの下にして、向こう側に引き出しておきます。
- ③ ぬいはじめの部分に針をさし、押さえ上げをさげます。
- ④ 布端と押さえのガイドを合わせて 1 ~ 2cm ぬいます。
- ⑤ はずみ車をまわして針をさし、押さえをあげて折り曲げた布の部分を押さえのうずの中に巻きこみます。
- ⑥ 押さえ上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながらぬいます。



3. 送りジョーズ..... (NO.200355009)

送りジョーズは、上下の歯で布をはさみこみながら布送りをするので、うす物、ニット地、ビニールレザー、皮などのそ材に使用するとぬいずれや、ぬいじわを防止するのに効果があります

〈セットの目安〉

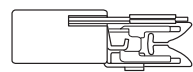
模様.....



糸調子ダイヤル..... 自動

ぬい目のあらさ..... 1.5 ~ 4

押さえ.....



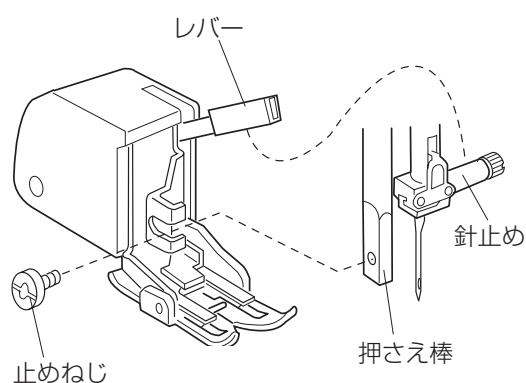
送りジョーズ

⚠ 注意

送りジョーズを取りつけるときは、必ず電源スイッチを切ってから取りつけてください。けがの原因になります。

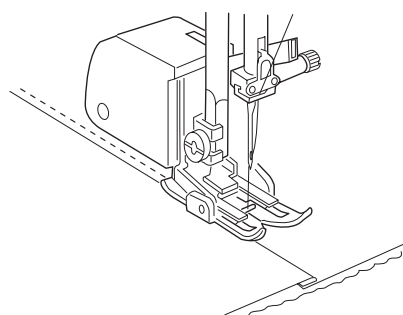
《取り付け方》

- ① 針と押さえをあげ、止めねじをゆるめて、押さえホルダーを外します。
(押さえホルダーのはずし方は、9 ページをごらんください。)
- ② レバーが針止めにのるように、送りジョーズを向こう側から押さえ棒に取りつけ、止めねじでしっかり固定します。



《ぬい方》

低速から中速くらいの速さでミシンを運転してください。



メモ

メモ

仕	様
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	54W
外形寸法	幅 42cm × 奥行 17cm × 高さ 30cm
質量	8.0kg (本体)
使用針	家庭用 HA × 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時：毎分 700 針

仕様および外観は改良のため
予告なく変更することがあり
ますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

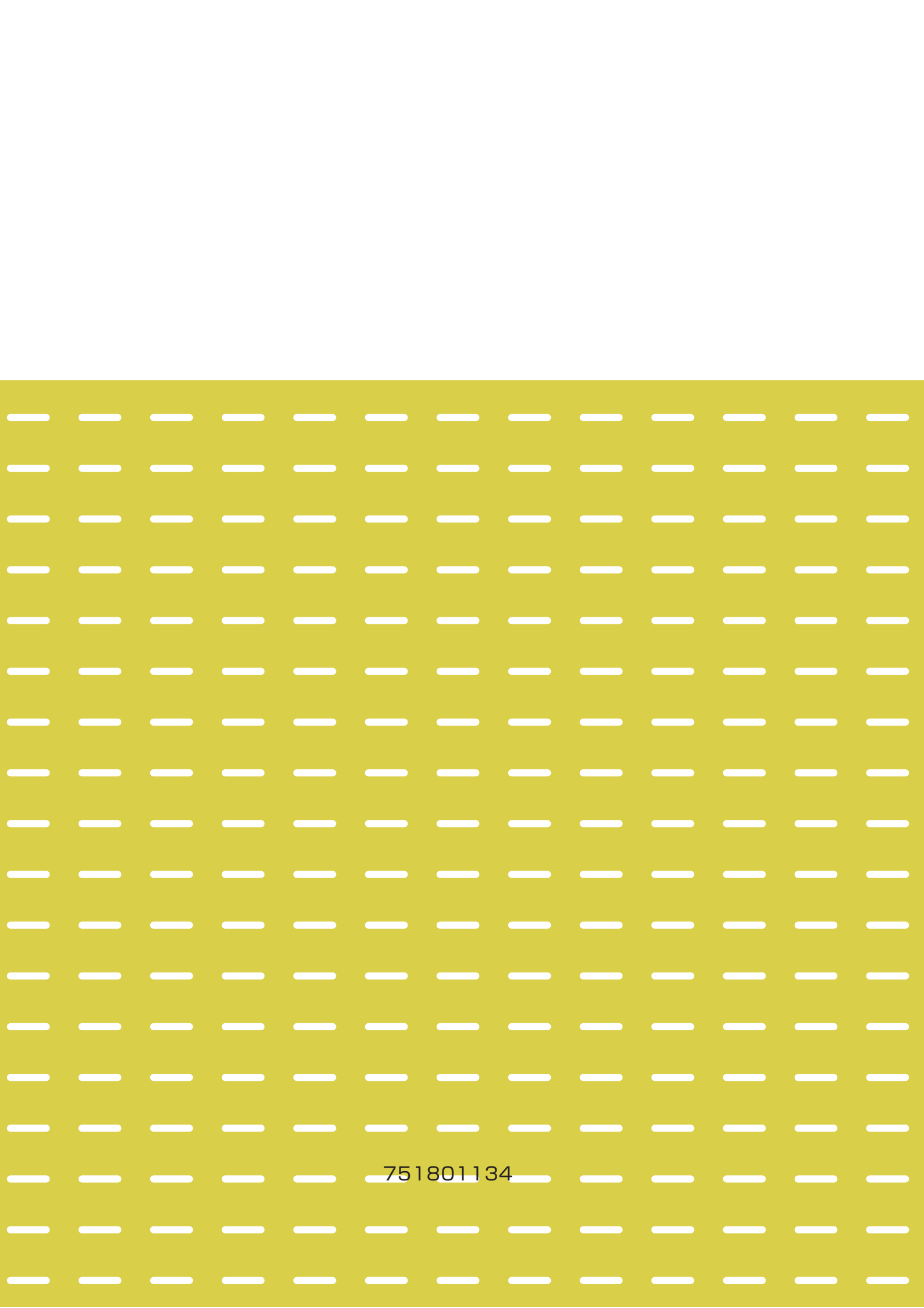
蛇の目ミシン工業株式会社

〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル)
042-661-2600

受付…平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <http://www.janome.co.jp>
問合せフォームをご利用ください。



751801134